

GRANDCUBE

Osaka International Convention Center

PRESS

Vol.26 2019 Spring



SPECIAL INTERVIEW

【株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長 福島 伸一】

目指すは、アジア有数の
“都市型MICE施設”

The Document GrandCube
JASIS関西2019

中之島ビジネスフロントライン
大阪市中央公会堂



SPECIAL INTERVIEW

施設・サービスをグレードアップ 目指すは、アジア有数の “都市型MICE施設”

株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長

福島 伸一 | SHINICHI FUKUSHIMA

株式会社大阪国際会議場は、2019年度から2028年度まで、

大阪府立国際会議場の指定管理者に選定されました。

国際会議の誘致に向けて都市間競争が繰り広げられる今、

当施設が選ばれる会議場になるための施策とは——。

今後10年間のビジョンと方針を、社長の福島伸一が語ります。

大阪の発展と国際化に貢献する

次期指定管理に向けてのビジョンと具体的な取組

株式会社大阪国際会議場は、今後10年間、引き続き大阪府立国際会議場を管理運営することになりました。ご支援いただきました皆様には、感謝と御礼を申し上げます。今後も、お客様に喜んでご利用いただける国際会議場づくりに取り組んでいきたいと思います。

一般的にMICE^{*1}施設は環境のいい郊外型も多くありますが、当施設は、歴史・文化など、都市魅力の豊かな大阪の町のど真ん中、中之島エリアにあります。日本と関西の玄関口である関西国際空港をはじめ大阪国際空港(伊丹空港)、新大阪駅からのアクセスもよく、近隣には5ツ星ホテルが多くあるのも当施設の強みです。

今後10年間の管理運営にあたっての目標は、こうした魅力ある立地を生かすとともに当施設をさらにプラッシュアップし、大阪府立国際会議場を“アジア有数の都市型MICE施設”にすることです。その目標達成に向けて、4つの基本方針を掲げました。

1. 国際会議の誘致を強化する

1つめは、国際会議の誘致強化です。当施設のミッションは、国際会議等の誘致を通じて、大阪の産業振興や地域の活性化に貢献することです。開業して約20年の間、大阪府市や大阪観光局、経済界、学術界などから多くのご支援をいただき、おかげさまで、2018年度における国際会議の開催実績は60件余り、と大きな成果を上げることができました。今後は国際会議誘致のためのネットワークをさらに拡大し、大阪が強みをもつ医学系の国際会議だけでなく、自然科学系の国際会議や政府・国際機関による国際会議の誘致についても強化していく方針です。開催件数もグレードもワンランク上を目指していくため、昨年4月から新たな体制づくりを進めており、人員も増強しています。



2. 快適で魅力あふれる大阪国際会議場を

2つめの基本方針は、「快適で魅力あふれる大阪府立国際会議場づくり」の推進です。これまでお客様満足の向上に取り組んでまいりましたが、多様化するお客様のニーズにお応えするために、2019年度よりs-OICC^{*2}(safety, smile & speedy)とe-OICC(electronics & entertainment)を経営の両輪として推進していきます。

s-OICCについては、当施設の運営にご協力いただいているパートナー会社とともに、オールOICCで「安全・安心を第一に、お客様を笑顔に、お客様対応は迅速に」をモットーに、お客様満足のさらなる向上に向けて活動していきたいと考えています。

e-OICCに関しては、開業20周年を迎えるにあたってお客様の利便性向上はもちろんのこと、より快適にお過ごしいただけるよう、館内のリニューアルを計画しています。

今後も館内設備や映像・音響システム、机・椅子などの附帯設備、またサービスを充実させ、「大阪府立国際会議場を使いたい」と思っていただけるような施設づくりを進めていきます。

3. お客様の安全・安心を第一に

3つめは、お客様の安全・安心を第一に施設運営を行っていくことです。お客様の安全を確保するため、日頃より施設設備の保守点検を行うとともに、警備体制や防災体制の強化、また訓練等にも努めています。また、お客様に安心して当施設をご利用いただくためには、多様なニーズをもつお客様や地球環境に配慮した施設運営も重要です。より多くのお客様に快適にお過ごしいただけるよう、どなたでもご利用いただける多目的トイレの設置や、地球環境に配慮した3R(Reduce, Reuse, Recycle)の推進など、人と環境に“やさしい”施設を目指していきます。

4. 経営を持続的に発展させ大阪の経済発展に貢献

4つめは、収益を最大化して持続的に成長し、大阪の経済発展に貢献することです。当施設の収入の約7割はお客様の施設利用料で、残りの3割弱は会議やイベントに付帯するサービス事業です。お客様のニーズが多様化している今、サービス事業の充実はお客様満足の向上にもつながります。5年後にはサービス事業による収入を施設事業に並ぶ経営の柱にしていきたいと考えています。

具体的には、ケータリングなど飲食サービスの強化です。会議場

大阪・関西MICE業界の センタープレイヤーとして 大阪経済に貢献



に来られた方々にとって、昼食は楽しみのひとつです。国内外のお客様に“大阪もん”や地産地消のお弁当など、「食の都・大阪」と言われるにふさわしいおもてなししができれば、と考えています。

看板や装花、映像・音響・照明スタッフなどは数年前から当社が“ワンストップサービス”として提供し喜ばれていますが、今後はさらにサービスを拡充していくたいと思っています。

地域との共生

当社は中之島の企業市民として、中之島にある企業・団体とコラボレーションし、さまざまな活動を展開しています。目指しているのは、「中之島」というブランドを全世界に発信することです。中之島



福島 伸一 *Shinichi Fukushima*

1971年京都大学法学部卒業後、松下電器産業(株)(現パナソニック(株))に入社。パナソニック(株)代表取締役副社長、関西国際空港(株)代表取締役社長、新関西国際空港(株)代表取締役会長を経て、2016年6月に(株)大阪国際会議場代表取締役社長に就任。(公財)大阪観光局会長も務めている。愛読書は司馬遼太郎作品。

は古くから、文化、経済、歴史、また「水の都・大阪」の中心地として栄えてきました。現在も行政や美術館などの文化施設が集積するとともに、水と緑にも恵まれ、中之島のポテンシャルはまだまだ高いと感じています。

今後大阪府では、数多くの大きなイベントが開催予定です。まず、6月にはインテックス大阪さんでG20サミットが開催されます。これほど大きな国際会議は、大阪だけでなく日本にとってはじめてのことです。当社もG20サミットの成功に向けて最大限に協力支援するつもりです。また、9月には東大阪市でラグビーワールドカップが開催され、10月には、世界最大級の旅に関する総合見本市「ツーリズム EXPO JAPAN 2019 OSAKA」もインテックス大阪さんで決定しています。当社でもこうした一大イベントに、できる限り協力していきたいと思っています。

そして、2025年には万国博覧会が大阪で開催されます。これまでには「誘致ための機運醸成」に取り組んできましたが、2019年からは「命輝く未来社会のデザイン」という、万博のテーマに関わるようなセミナーやフォーラムを積極的に開催し、「成功に向けての機運醸成」に取り組みたいと考えています。

ビジネスイノベーションの機会を創造するMICE業界は、大きな経済効果が期待でき、開催都市のブランド力を高める役割も果たします。日本政府はインバウンド観光に並ぶ、ネクスト成長産業として位置付けて、MICEを推進しています。大阪府市もMICE推進方針を打ち出して、成長産業に育てていこうとしています。我々は、そうしたフォローの風が吹いている業界のセンタープレイヤーとして、大阪の発展に貢献したいと考えています。

※1 MICE: Meeting(会議)、Incentive Travel(報奨・研修旅行)、Convention(学会等の国際会議)、Exhibition / Event(展示会・見本市/イベント)の頭文字から成る、企業や国際機関・団体、学会などが主催し、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称。

※2 OICC:OSAKA INTERNATIONAL CONVENTION CENTER

The Document GrandCube

#01



関西初開催!
日本の産業を支える

分析システムと 科学機器展

JASIS関西2019

2月5日(火)–7日(木)

※JASIS:Japan Analytical & Scientific Instruments Show

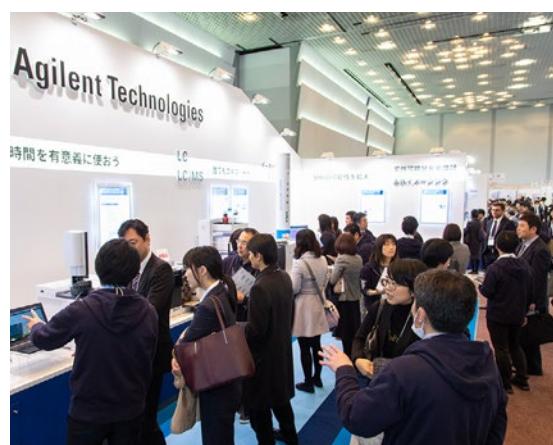
2月5日～7日の3日間にわたって、最先端科学と分析システム、ソリューションの展示会「JASIS関西2019」が開催されました。

イベントホールでは、分析装置などのメーカー93社が最新装置やソリューションを展示し、会議室では技術者や専門家によるセミナーやフォーラムを開催。期間中は終日、各社のユーザーをはじめ、学生、商社の方々でにぎわいました。

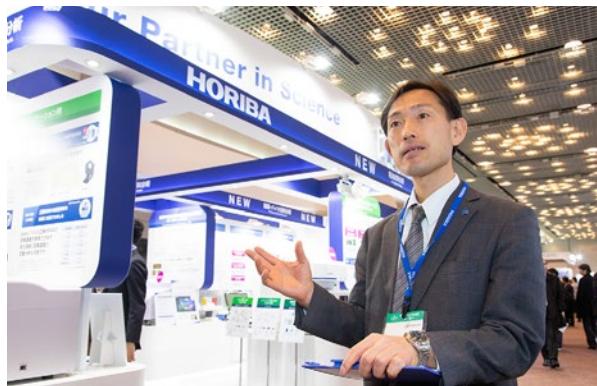
トップメーカーが 最新機器を披露

3Fイベントホールを彩るのは、最先端の分析装置をはじめとする科学機器や部品など、日頃目にすることのない機器の数々。卓上型の3Dプリンターや、LEDによるプロジェクションマッピングさらながらの実演など、来場者の好奇心をそそる展示も見られます。

JASISはこれまで年1回、千葉県の幕張メッセで行われており、今回初めて関西で開催



The Document GrandCube #01 JASIS関西2019



されました。関西を拠点とするユーザーやディーラーの方々にとっては、待ちに待ったJASISとあって、会期中は連日1,500人前後の方々が来場しました。

出展企業の大半を占めるのは分析機器メーカー。「現在の私たちの暮らしは、様々な科学の進歩の上に成り立っているといっても過言ではありません。例えばよりよい素材の開発が進めば、より優れた製品となって私たちにフィードバックされます。その研究開発や品質管理を支えているのが、分析機器、科学機器業界なのです。」とJASIS委員会の井上哲郎さん。分析機器のトップメーカー、株式会社島津製作所には、昨年発売された「Q-TOF型高速液体クロマトグラフ質量分析計」が展示されていました。これはサンプルをイオン化して質量を測定する、島津独自の特許技術を用いた装置。簡単な操作で、質量精度と分解能、感度を高いレベルで実現でき、

製薬や環境、法医学、食品などの研究分野で活用されているそう。ブース内にはこのほかにも、世界最小サイズの卓上分析計など、コンパクトな装置が並んでいました。同社の担当者は「当社はSDGs^{※1}を意識し、小型装置や環境負荷の少ない製品づくりに取り組んでいます。JASISでは、産業がどのように社会貢献しているのかをアピールできれば」と話してくださいました。

自動車の排気ガス分析装置が世界シェア8割を誇る株式会社堀場製作所は、関西のメイン産業の電池と製薬に特化した分析技術を紹介されていました。同社はこれまで、自動車用電池の材料を分析する装置を手がけてきましたが、電動化車両の評価まで一貫して行うようになったことから、そのプロセスなどをパネルで展示。海外の自動車・電池メーカーからの評価の依頼も多く、世界の自動車電動化開発に貢献されていることが

伺えます。

錠剤の成分を簡易かつ正確に分析する装置や、先端材料の粒子サイズを測定する装置も、堀場製作所の主要製品。近年は、薬の製造現場における滅菌管理システムなど、製造プロセスのソリューションを提案していることもPRされていました。

製品を体験できる ブースも

日本電子株式会社は、分析機器や医用機器、産業用機器の製造・販売・開発・研究を手がける世界トップレベルの理化学機器メーカー。同社が手がけた電子顕微鏡は、品質管理や材料開発・研究、教育機関でも使われているとのこと。当日、ブースでは、同社研究室と回線を結び、電子顕微鏡を用いるとコンクリートの表面がどのように見えるのかをモニター画面で体験できるなど、工夫が凝らされていました。

研究室機器・機材や科学機器、産業機器、看護・介護用品等の総合商社として知られるアズワン株式会社のブースでは、手のひらサイズのものを製作できる3Dプリンターを展示。安価なことから研究室では、部品の試作などに使われているそう。この他、グリップ力の高い使い捨て手袋もブースに並び、実際に



JASIS委員会の井上哲郎さん





着用して、使い心地を体験する来場者の姿も見られました。

セミナーや フォーラムも盛況

製品を見るだけでなく、知識や技術を学び、新情報を得られるのも、JASISの特徴です。10F会議室では、メーカー各社による新技術

説明会、分析装置の基礎知識やデータ処理のノウハウに関するセミナー、日本薬局方セミナーを実施。さらに、「次世代電池」「香りとにおい」をテーマに、各企業が分析・解析手法を発表する「オープンソリューションフォーラム」も開催されました。「環境問題や省エネなど、科学の進歩はまだ必要とされています。各社が切磋琢磨して技術を高め、産業発展、社会貢献につなげていきたい。その一端を

JASISが担えれば」と井上さんは期待を込めて話されました。会場に来られない方々のために、会期前後には展示会向けのコンテンツをWEB広告として掲載する「JASIS WebExpo2019」も実施。こうしたユニークな試みも奏功し、関西初のJASISは盛況のうちに幕を閉じました。

※1 SDGs:Sustainable Development Goals
「接続可能な開発目標」



JASIS委員会
長谷川 武義 委員長
出展企業にとって非効率と考え、2010年から合同展を始め、2012年から「JASIS」の名称で実施しています。

出展企業はライバル同士ですが、日本の産業の発展と社会に貢献したいという志は同じ。「限られた市場で効果的にPRできる土俵を

つくり、その上で正々堂々と戦おう」という目的を持って運営しています。

JASISは、約70人で構成されるJASIS委員が自前で企画・運営しています。JASIS委員は主催者であると同時に出展者。出展者のニーズがわかるからこそ、オリジナリティのある展示会が開催できると自信しています。これまでには幕張メッセで実施していましたが、関西のお客様から「行きたいが、遠くて行けない」という声が多く寄せられていました。また、会員からの要望もあり、今回初めて関西で開催することになりました。

JASISは、展示会とセミナーを同時に実施するのが特徴です。欧州をはじめ、上海やシンガポールには、展示会場とセミナールームに加えて、駅やバスターミナル、ホテルが集結した

「オールインワンのコンベンション施設」が多数ありますが、日本にはそうした施設は少なく、会場選びが大変です。その点、大阪府立国際会議場にはセミナールームが併設されているので、展示会場からの移動もスムーズ。大阪都心からのアクセスもいいので、「半日だけ仕事を抜けて来られる」と多くの方々が来場してくださいました。

2019年9月にはJASIS 2019が幕張メッセで開催されます。今後もこの活動を盛り上げ、参画した企業の連携や技術力を高めるきっかけにしたいと思います。



野元 政男 副委員長

グランキューブ大阪は、"オールインワン"！

「JASIS」は、一般社団法人日本分析機器工業会主催の「分析展」と、一般社団法人日本科学機器協会主催の「科学機器展」の合同展の統一名称。両展示会には重複する領域があり、団体ごとの開催はお客様と出展者にとって非効率と考え、2010年から合同展を始め、2012年から「JASIS」の名称で実施しています。

出展企業はライバル同士ですが、日本の産業の発展と社会に貢献したいという志は同じ。「限られた市場で効果的にPRできる土俵を



日本薬局方セミナーにて

EVENT INFORMATION



グランキューブ大阪で開催された、及び
今後開催予定のイベントをご紹介します。

COMING-UP [開催予定]

2019. 6/7-8

100周年記念平田感謝祭オレンジフェア57th

『新築・リフォームご検討の皆様!
「暮らしにプラスが見つかる展示会」ぜひご来場ください!』

今年で創業100周年!平田感謝祭オレンジフェアは、最新のキッチン、バス、トイレをはじめ空調機器や照明など国内外のトップメーカーの新製品を一堂に展示ご覧いただける大展示会です。今年も50社を超えるメーカーが出展し、新築・リフォーム問わずデザインと機能に優れた製品をご提案致します。また、セラミックタイル新製品展示会も同時開催。上質で洗練された空間づくりに欠かせないタイルの魅力をお伝えします。どなた様でも無料でご入場頂けます。ご家族でお楽しみ頂けるイベントも多数企画中。暮らしにプラスな情報を見つけにぜひ皆様お誘いのうえ、ご来場ください。

詳しくは、平田タイルホームページをチェック!

<http://www.hirataile.co.jp/>
[株式会社平田タイル 感謝祭実行委員会]



2019. 6/20-22

第29回JDPAコンベンション

『デコラティブペインティングの祭典』



今年、設立30周年を迎える、日本デコラティブペインティング協会(JDPA)主催のコンベンションです。今回のテーマは「新しい扉を開けよう! ~30th Anniversary」。全国4支部から寄せられた会員の作品展示、講師会員による体験セミナー、デモンストレーション、ブース出展、またペイントやクラフトに関わる企業(賛助会員)による講習会や販売ブースなど、盛りだくさんの企画で楽しんでいただけます。皆様のご来場をお待ちしております。

詳しくはJDPAホームページでご覧いただけます。<http://www.jdpa.jp/>
[日本デコラティブペインティング協会 コンベンション委員長 波部智子]



第26回JDPAコンベンション(大阪)

2019. 6/13-15

第94回日本医療機器学会大会

メディカルショージャパン&ビジネスエキスポ2019

『医療機器学の立ち位置を考えよう』



新規医療機器に潜在するリスクを再認識し、同時に、それを起こさない機器やそのリスクを回避するための機器(補助具)の開発を念頭に、そのような文化、「新しい機器には必ずリスクが潜在すると考え、安全性をあらゆる視点から確認する。そしてリスクの回避と安全性向上の技術を合わせて生み出すことを一連の機器開発と位置付ける」という文化を根付かせる。見方を変えれば、これは新たなビジネスを生むことを意味します。産・学・医さらに現場が結びついた本学会に多くの方にご参加いただきたくご案内申し上げます。

[一般社団法人日本医療機器学会]



FINISHED [会期終了]

2019. 1/12-13

先進医療国際カンファレンス大阪2019

(2019 Integrative Medical Therapies Conference Osaka, Japan)

『国内外の専門医による先進医療カンファレンス』



私ども医療法人再生未来では、人間が本来より備える自然免疫を活性化する免疫療法を行っております。

今回は、100名を超える医師・医療関係者・患者様等にご参加いただき、国内外で提携している専門医20名(日本、アメリカ、インド、オーストラリア、オランダ、シンガポール、メキシコ、マレーシア)が登壇し、各国で行われた癌、発達障害、美容分野などへの臨床報告や新たな検査方法、基礎研究等の発表が行われました。

いずれの発表も大変興味深く、参加された皆様におかれましても、新たな可能性が実感できる有意義な会になったと存じます。[医療法人再生未来 カンファレンス事務局]



1/25[金]19:00-21:00

ラボカフェスペシャル featuring

「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」07

at アートエリアB1(京阪電車中之島線なにわ橋駅B1)

平成30年度文化庁戦略的芸術文化創造推進事業
「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」
主 催:文化庁、アートエリア B1 運営委員会
共同企画:大阪府立国際会議場
共 催:大阪大学共創機構、中之島まちみらい協議会

トークセッションテーマ

「"中之島 MICE"の可能性をめぐって」

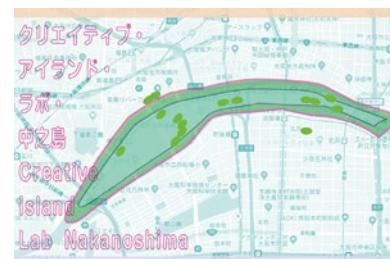


「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」は、京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階にある「アートエリアB1」で進行中の新しい文化プロジェクト。中之島全体を一つの創造的な実験エリアと見立て、中之島に立地するミュージアムやホールなどの文化施設、また企業が協力して、それぞれの個性を活かしあうプログラムが展開されています。

1月25日(金)19時から21時の予定で開催されたトークセッションイベント「ラボカフェ」では、「"中之島MICE"の可能性をめぐって」のテーマの下、ゲストとして、大阪市立東洋陶磁美術館・出川哲朗館長、コンラッド大阪・本田墨五営業部副部長と共に、株式会社大阪国際会議

場営業部誘致開発課長補佐・松室淳一郎が参加。当日ご参加の30名程の方々の前で、MICE誘致ポテンシャルの極めて高い中之島において、その拠点として様々な国際会議を開催して来たグランキューブ大阪のこれまでの取り組みを紹介しました。

続くトークセッションでは、カフェマスターの大坂大学共創機構社学共創本部准教授・アートエリアB1運営委員の木ノ下智恵子氏の司会により、中之島の地にあって多くの「国宝」また「重要文化財」級の中国・韓国陶磁のコレクションを所蔵し、ヨーロッパを始め世界各地から多くの外国人コレクターや愛好家が足繁く訪れる大阪市立東洋陶磁美術館の稀有な存在価値、またヒルトンホテルグループの最高級ブランドとして、日本ではコンラッド東京に次いで、大阪のビジネス拠点である中之島に立地するコンラッド大阪の世界基準のホスピタリティも紹介され、中之島の歴史、文化、立地、施設、ビジネスが一体となった、他の地にはない独自の魅力に着目。これらを連携したエリアマネジメントとしての「中之島MICE」の可能性についての熱い対話が繰り広げられました。



2/25[月]13:00-14:30

大阪府警 G20 テロ対策訓練

銃器犯制圧検挙訓練／爆発物処理訓練／来館者及び従業員の避難訓練

at 大阪府立国際会議場 5階メインホール、1階プラザ

6月に大阪市で開催される20カ国・地域(G20)首脳会合に向けた大阪府警の「G20 テロ対策訓練」が、2月25日(月)にグランキューブ大阪で行われ、関係者や来館者約150人が参加しました。

この訓練の目的は、不特定多数の人が集まる「ソフトターゲット」を狙ったテロ対策です。当日の訓練は、5階メインホールでコンサートが開かれている最中に観客席で発砲があり、入口に別の犯人が爆発物を設置したとの想定で実施。天満署署員また機動隊の銃器対策部隊員により観客の避難誘導が行われた後、犯人は制圧され、同時に爆発物処理班が防護スーツや特殊な車両、機器を使い速やかに爆発物を処理しました。

訓練とは言え、実際に目の前でテロが起きているかのような緊迫感と物々しさがあり、参加者もめいめい真剣な表情で取り組みました。



銃器犯制圧検挙訓練 コンサート開催中、観客のなかに紛れたテロリストを大阪府警のテロ対策部隊ARTが制圧する。



爆発物処理訓練 避難客に紛れたテロリストを制圧。テロリストが置いていった爆発物を爆発物処理班が処理する。



大阪市民の寄付で誕生

松尾 このたびはお時間をつくっていただき、ありがとうございます。中央公会堂さんとは、同じ中之島の一員として一緒に中之島をブランディングできたら、と思っています。大阪府立国際会議場は大阪の都市格向上、経済発展、文化・学術の振興を目的に建てられましたが、中央公会堂さんは、大阪市民の岩本栄之助さんの寄付で建てられました。これまで、どのように使われてきたのでしょうか?

中井 戦時中は避難所、戦後は集団就職の

会社説明会や集団お見合い、集団結婚式の会場にもなりました。現在は、市民のサークル活動やイベントのご利用が大半です。

松尾 時代のニーズに合わせて使われてきたからこそ、100年もの間、市民の方々に親しまれてきたのですね。

中井 そうなんです。昭和50年代、市役所庁舎の建替に伴って、中央公会堂の取り壊しなどを含む中之島再開発計画が浮上しました。その時、市民は当館の永久保存活動を起こし、朝日新聞さんはその再生事業費の一部に、と赤レンガ基金を設けられました。こうした活動のかいあって、昭和63年、永久保存が決定し、その約20年後に保存再生工事が始まりました。

松尾 どのような工事だったのですか。

中井 「創建当時の姿で保存したい」という市民の熱い思いをくんで、外観や内部意匠を

復元改修とともに、バリアフリーにするなど機能を拡充しました。それらが見事に融合しているのも、長く愛される秘訣ですね。100年以上前に寄付をされた岩本さんの意思が、受け継がれていると思います。



100周年記念事業を終えて

松尾 昨年は100周年を迎えられ、多くの記念事業をされましたね。

中井 はい。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバー5名を招いてコンサートを開催し、



大阪市中央公会堂 中井雅博館長

岩本家の関係者もご招待しました。岩本の方々は、当館が年間100万人が来館する施設になっていることを喜んでくださいました。我々も管理者としてうれしく思います。

松尾 100周年事業で印象に残っていることは何ですか。

中井 「中之島、中央公会堂をキーワードにイベントをしませんか」と募り、集まった企業・団体と費用を出し合ってイベントを開催したことです。皆さんにファンづくりの機会を提供できたことは、大きな成果ですね。

松尾 その後のつながりをつくれたことは、100周年記念事業の遺産とも言えますね。

中井 地域、市民とのつながりが希薄になれば、存在意義も薄れていきます。これからも、地域と市民とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

もうひとつ印象に残っているのは、マスキングテープメーカーのイベントです。国指定重要文化財であるこの建物をマスキングテープで装飾するという驚きの内容でしたが、イベントはSNSで爆発的に拡散し、会期中にはこれまで中央公会堂を利用したことのない若い層のお客様が大勢来てくださいました。顧客の鉱脈を掘り当てた! と思いました。

親しまれる施設であり続けるために

松尾 今後、中央公会堂さんはどのようにありたいとお考えですか。

中井 理想は「格式は高く、敷居は低く」なんですよ。

松尾 確かに中央公会堂さんには、世界の著名人が多く訪れていますが、漫才も開催されている。長く親しまれ、使われ続ける施設の見本ですね。

中井 ありがとうございます。この姿勢を

保ちながら、大阪のブランド向上にも協力したいと思っています。世界にはニューヨークやパリなど、中之島のようにセパレートされた地区を持つ大都市が6カ所あり、そこには文化施設が多いそうです。そんなエリアである中之島を“基地”ととらえ、地域の福祉や文化を向上させる活動が展開されているので、参画したいと思っています。ゴールは、大阪の市民であることに誇りを持ってもらうこと。そうすれば、犯罪率も減るはずです。

また、大阪国際会議場さんとはぜひ、イベントを共催したいと思っています。いわば、スーパークリエイターとクラシックカーの共演ですね。

松尾 我々も、国際会議の誘致など、タッグを組んで共存共栄できる関係が築ければ、と思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。



株式会社大阪国際会議場 営業部企画課課長 松尾浩伸

屋内には、日本神話に題材をとった神々の姿がある。特別室（旧貴賓室）の天井画は「天地開闢」の場面。国生みのために降臨するイザナギとイザナミの二神を描く。対して北面の壁には「商業の神」であるサノオノミコト、南面に「工業の神」であるフトタマノミコトの絵を配置する。いずれも洋画家松岡壽の作品である。

対して東正面のアーチ状の屋根の上、公園を往来する私たちを見おろすように、ローマから渡來した二神が鎮座している。

左がメルクリウス、英語名でいえばマーキュリーである。二匹の蛇が巻きついた伝令使の杖を右手に、金銭を入れる巾着を左手

があつた場所に建設された。秀吉・秀頼・秀長を祀る社殿が置かれていた聖域が、市民の集会施設に転じたことになる。

公会堂の建物の内外に、神々が配された。

大阪市中央公会堂は、かつて京都豊國神社大阪別社の境内地があつた場所に建設された。秀吉・秀頼・秀長を祀る社殿が置かれていた聖域が、市民の集会施設に転じたことになる。

公会堂の建物の内外に、神々が配された。



橋爪紳也 Shinya Hashizume

大阪府立大学研究推進機構特別教授
大阪府立大学観光産業戦略研究所長

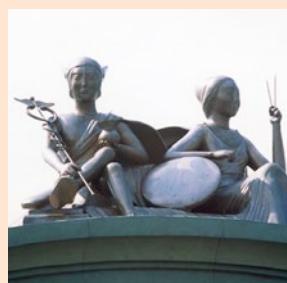
東洋と西洋の商工神が中之島で出会い、力を併せて、大阪という都市を守護していると考えると面白い。

中之島トリビア

商工都市の守護神たち

NAKANOSHIMA TRIVIA

第1回



画像提供 大阪市中央公会堂

PLAYBACK GRANDCUBE

大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)は、来年2020年、おかげさまで開業20周年を迎えます。これを記念し、広報誌「GRANDCUBE PRESS」では、4回にわたって、前身の「大阪国際貿易センター」設立に遡る開業までの経緯と、開業後20年間の今日までの歩みを振り返ります。題して、PLAYBACK GRANDCUBE。今回はその第1回目です。



＜大阪府立国際会議場開業に至る経緯＞

1958年(昭和33年)

前身は「株式会社大阪国際貿易センター」

大阪府と経済界の共同出資により、設立。

1960年(昭和35年)に現在地に施設をオープンし、総合商品常設展示場及び催し会場として、大阪経済の貿易産業に貢献。



前身の大阪国際貿易センタービル(昭和37年頃)

1989年(平成元年)

「大阪国際会議場建設推進協議会」設立

大阪府知事、大阪市長、社関西経済連合会会長、大阪商工会議所会頭による大阪国際会議場建設推進協議会を設立。貿易センター跡地に国際会議場建設を決定。

1996年(平成8年)

建設着工、平成11年12月竣工

大阪府を事業主体として、1996年(平成8年)11月、地上13階地下3階、高さ104mの会議場建設に着工。1999年(平成11年)12月24日竣工。

2000年(平成12年)

大阪府立 国際会議場 開館

商号を「株式会社大阪国際会議場」に変更。大阪府より管理運営業務を受託

開業に先立ち、商号を株式会社大阪国際会議場に変更。2000年(平成12年)4月1日より、大阪府立国際会議場の管理運営業務を継続中。



EPISODE 01

設計は、建築界の巨匠・故黒川紀章氏



「メタボリズム」、「共生の思想」に基づく
「メカニカルウェハー」の有効活用

グランキューブ大阪の設計は、国内外の代表的な建築物の設計で知られる巨匠・黒川紀章氏によるもの。氏の提唱する生物学に基づく建築理論「メタボリズム」と「共生の思想」により、グランキューブ大阪は設計されています。

その具現例は、冷却器、空調機、変電施設などの設備空間「メカニカルウェハー」を、各階の階層間にサンドイッチ構造で配置したこと。これにより機能の維持管理、設備の取換を容易にした未来志向型の建築物が誕生しました。

PROFILE 1934年名古屋市生まれ、2007年没(享年73歳)。

京都大学工学部建築学科卒業、

東京大学大学院工学研究科建築学専攻修士修了。

<代表作> 国立民族学博物館、大阪府警察本部、クアランブル国際空港

<受賞歴> フランス建築アカデミーゴールドメダル(1986年)、日本芸術院賞(1992年)、正四位旭日重光章(2007年)

EPISODE 02

竣工間もなく、ゴジラにより破壊される!?

映画『ゴジラ×メガギラス～G消滅作戦～』で
破壊される「新首都」大阪の発電所に

2000年公開の東宝映画『ゴジラ×メガギラス～G消滅作戦～』で、竣工間もないグランキューブ大阪が、東京が壊滅して「新首都」となった大阪・中之島の新エネルギー研究施設「クリーンエネルギー・ファクトリー」として登場。冒頭のシーンでいきなりゴジラに襲撃され、そのとてつもない破壊力によりあっけなく粉砕されるという「豪華目」に。

グランキューブ大阪を選んだ手塚昌明監督によれば、「未来的な形で、SF的な雰囲気が良かった」とのこと。開館直後の全国的なPR活動に大いに貢献しました！



© TOHO CO., LTD.



(電車)

- 京阪中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」(2・3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約15分

(バス)

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪シティバス(53系統 船津橋行)
または(55系統 鶴町四丁目行)で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行しており、ご利用いただけます(定員28名)
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

株式会社 大阪国際会議場

OSAKA INTERNATIONAL CONVENTION CENTER CORP.

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号
Tel.06(4803)5555(代表) Fax.06(4803)5620



GRANDCUBE PRESSは、
地球にやさしい広報誌。
この印刷物は環境に配慮した
植物油インクを使用しています。